

研究課題名	神経疾患患者における丸椅子着席時の偏倚に関する検討
研究期間	実施許可日 ~ 2025年 3月 31日
研究の対象	2017年6月から2024年3月の間に、広島大学病院脳神経内科で「パーキンソニズム」または「脳血管障害によるパーキンソニズム」の診断を受けられた患者さん、および下肢の運動障害のない「健常者」の方のうち、すでに丸椅子着席時の写真撮影、偏倚距離測定を行った方。
研究の目的・方法	<p>研究目的：パーキンソン病はパーキンソニズム（運動緩慢、振戦、筋強剛、姿勢保持障害等）を中心とした運動症状が前景となる有病率の高い神経変性疾患ですが、パーキンソニズムの有無を判断するための簡便な方法はなく、時間をかけた神経診察が必要です。また、パーキンソン病の診断には、様々な手法でパーキンソニズムを呈するパーキンソン病以外の病気（進行性核上性麻痺、多系統萎縮症、大脳皮質基底核変性症など）を除外する必要がありますが、しばしば鑑別は困難な場合もあります。このような状況から、診察室で簡便に用いることができるパーキンソニズムの有無やパーキンソン病とパーキンソニズムを呈するパーキンソン病以外の病気の鑑別のための指標が求められています。近年、パーキンソン病とパーキンソニズムを呈するパーキンソン病以外の病気の鑑別に有用な下肢症状に関連した神経徴候がいくつか報告されており、パーキンソン病患者さんの「起立動作」の解析報告も散見されます。しかし、下肢の運動症状を反映する「着席動作」の解析報告はほとんどなく、疾患の鑑別に有用だという報告もありません。今回、診察室の丸椅子に着席した際の中心からの偏倚の程度が、パーキンソニズムの有無やパーキンソン病とパーキンソニズムを呈するパーキンソン病以外の病気の鑑別に有用な指標になるのではないかと考えました。そこで、今回の研究においてあなたの丸椅子着席時の中心からの偏倚のデータを収集、分析させていただき、鑑別に有用な徴候であるかをあきらかにすることが目的です。</p> <p>研究方法：本研究は、「パーキンソニズム」と診断されている方と、対照群として「脳血管障害による片麻痺」と診断されている方および下肢の運動障害のない「健常者」の方を対象に、丸椅子に着席した時の中心からの偏倚のデータを収集し、解析していきます。過去に丸椅子に着席した時の写真を撮影されている方については、後方視的に検討させていただきます。また、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴、家族歴、生活歴、服薬歴、治療歴、罹病期間、優位障害側、パーキンソン症状（振戦、筋強剛、

	姿勢保持障害、姿勢異常、すくみ足), Hoehn-Yahr 重症度ステージ (パーキンソン病重症度ステージ), NIH Stroke Scale (脳卒中重症度スコア) ならびに丸椅子に着席した時の写真データ
外部への試料・情報の提供	ありません。
利用または提供を開始する予定日	本学における実施許可日
個人情報の保護	診療録から収集した情報は氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないよう加工します。個人と連結させるための対応表は、研究責任者が保管・管理します。
研究組織	<p>本学の研究責任者 広島大学大学院医系科学研究科脳神経内科学 教授 丸山 博文</p> <p>研究代表者 広島大学大学院医系科学研究科脳神経内科学 教授 丸山 博文</p> <p>共同研究機関 小島病院 理事長 小島 敬太郎</p>
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	<p>研究に情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象といたしませんので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報を結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。</p> <p>広島大学病院 脳神経内科 担当者：竹林 佳子 中森 正博 〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3 電話番号：082-257-5201</p>